

topic
1

被災地のいま ～被災5年目の岩手県大槌町を訪れて～

今回、修士論文の調査のため昨年に引き続き、住居学科平田研究室・石川研究室の合同で、東日本大震災の被災地である、岩手県大槌町に調査に訪れました。修士での研究テーマは「東日本大震災被災者の生活の復興に住宅と交流の再建が果たす役割」です。震災後、早期に仮設住宅に入居することを重視した結果、様々な地域の住民が分散して仮設住宅に住むことになりました。それにより、被災者の生活は一変され、知り合いが一人もいない地域で寂しく暮らすことになってしまったということが多くありました。このことから、地域住民同士の交流を、住宅の再建に並ぶ重要な要素として捉え、それに配慮することが被災者の生活復興には重要なのではないかという視点の下、研究を行っています。9月1日から5日の計4泊5日という短い間でしたが、私たちが見た5年経過した被災地の現状と、現地で感じたことを報告します。

大槌町とは？

大槌町は岩手県上閉伊郡にあり、太平洋に面しています。ひょっこりひょうたん島のモデルではないと言われる、蓬莱島があることでも有名です。右の表のように、昨年に比べ仮設住宅の入居率は減少したものの、未だ仮住まい暮らしを余儀なくされている方が多くいらっしゃいます。

震災から5年経過した大槌のまち

今年の大槌のまちは昨年と比べ、大きく異なる様相でした。盛り土は完了し、以前は土埃が舞っていた道路も、綺麗に舗装されました。区分けされた土地では地鎮祭を行う家族もみられ、復興へ向け一歩一歩踏み出しています。そうした景色の中でも、災害遺構として保存されることが決定した旧大槌町役場が、痛ましい震災の記憶を風化させないようにと存在感を放っていました。



旧大槌街役場 (2016年)



ヒヤリングの様子

今回の調査を通して

今回の調査では先に示した表のように、仮設住宅に入居している方は昨年より減少し、自宅を再建したり、修理して住んでいる方が多く見受けられました。しかし、5年が経過した現在も、未だ仮設住宅に住んでいる方も少なくなくいらっしゃるのが現状です。また、住宅を取り戻しても震災前のように暮らすことは困難で、町の中心部への人口の流出により、人が少なくなってしまった地で、知り合いがいない中、寂しい思いをしながら生活している方も多くいらっしゃいました。住宅を取り戻すことが復興ではなく、震災前と同じような生活を送ることができること、そこまで行きついて初めて復興といえるのではないかと感じました。

今回調査に訪れる前日まで、岩手県を台風が襲い大槌町の皆さんも避難したり、警報に怯えたりと大変な思いをされました。しかし、そんな中でも柔和に私たちを受け入れて下さり、そのお心の温かさで復興へ向かう前向きで力強い姿勢に私たちの方が、大いに力を頂きました。

東日本大震災から5年が経過し、被災地の人々は新たな岐路に立っています。復興の兆しが見えた大槌の景色は、時の流れとともに震災の記憶を風化させるのではなく、被災地に寄り添い共に歩む大切さを再び痛感させてくれました。

(文：平田研究室 修士1年 阿部一咲子)

- 1) 岩手県：応急仮設住宅（建設分）供与及び入居状況（平成27年9月30日現在）、
<http://www.pref.iwate.jp/saiken/sumai/023870.html>, 平成27年11月12日。
- 2) 岩手県：応急仮設住宅（建設分）の入居状況（平成28年8月31日現在）、
<http://www.pref.iwate.jp/saiken/sumai/023870.html>, 平成28年9月9日。



高台からの景色 (2015年)



高台からの景色 (2016年)

表1 応急仮設住宅の入居状況^{1,2)}

区 分	内 容	
	平成27年 9月30日時点	平成28年 8月31日時点
団地数	48団地	48団地
供給住宅戸数	2140戸	2127戸
うち入居世帯数	1569世帯	1208世帯
うち入居者数	3159人	2432人
入居率	73.3%	56.8%

文京区防災フェスタに出展 (平田研究室 院生、4年、3年生)

文京区主催の総合防災訓練(防災フェスタ)が2016年8月21日に行われました。防災フェスタは救助活動や消火訓練、炊き出し訓練など体験型訓練や防災体験ができる区民向けのイベントで、毎年1000人を超す参加者が来る大きな催しです。平田研究室では、企業や自治体が出す展示ブースに出展し、小さな子連れの方々に防災について触れあっていただくブースを企画しました。

今回は平田研究室の院生が中心となって企画し、研究室の4・3年生、石川研究室の4年生が参加しました。ブース内では小さな子連れの方向けに作成した防災パンフレットを配布し、その内容の感想を聞き、学生が小さな子ども向けに防災紙芝居を読み聞かせをしました。また軸組模型を用い、住宅の構造の安全性について模型を組み立てて学べる体験コーナーでは、模型の組立に夢中になる親子が多くいました。

8月の暑い中でしたが、多くの子連れの方がブースまで足を運んで下さり、人が途切れることがなく、大盛況でした！

平田研究室は防災をテーマの一つとしています。修論では東日本大震災を通して、子連れの世帯にむけた防災対策がまだ十分ではないという現状から、子連れの世帯を対象に防災の研究を行っています。今回、防災パンフレットや紙芝居、模型体験を通して、実際の子連れの方々の防災に関する意識を伺うことができました。また、ブースに来ていただいた方には、少しでも防災に興味をもって頂けたのではと思います。

ブースの企画に当たり、多くの方々にご協力いただきました。協力いただいた皆様、ありがとうございました。
(文：平田研究室 修士2年 府中ひかる)



防災フェスタの様子



配布した防災パンフレット
(妊婦の方・乳幼児をもつご家庭向け)

東日本大震災を経験した子連れの方々の経験談をもとに、文京区に住む子連れの方向けに作成したパンフレット。

災害時に子どもがいるからこそそのようなことに困るか等、もしもの時に備えるための、「気づき」を目的とした内容です。



ブースに来てくれた子どもには風船をプレゼント



学生が子どもに防災紙芝居を披露しました



軸組模型の体験コーナー



参加した学生と先生方と東京消防庁のキュー太くん

防災への意識が高まりました。
ありがとうございます。

子どもに説明しながら
親子で防災に努めたい
と思います。

もしもの時のことを考
えさせられました。
どうもありがとうございました。

気づきがあったので感
謝しています。